

一般質問通告書

佐野市議会議長 様

受付	番号 9
	令和 2年11月26日
	午前・午後10時25分

議会名	令和 2 年 第 8 回 佐野市議会定例会	
発言者	議席番号 3 番 菅 原 達	
答弁を求める者 (選択してください)	○市長・副市長・教育長・○担当部局長	
一般質問時に使用する資料の有無 (選択してください)	あり (資料提示・資料配付・モニター使用) ○なし	
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)	
1. 災害から命を守るためのソフト対策の強化について (1) 避難行動要支援者に対する支援の強化について	<p>① <u>避難行動要支援者名簿の作成・活用の現状と課題について</u> 避難行動要支援者名簿に掲載する対象者数と実際の登録者数含め、名簿の作成・活用の現状と課題について伺いたい。</p> <p>② <u>避難のための情報伝達について</u> 佐野市地域防災計画によると、避難勧告等の伝達手段の整備として、「特に、要配慮者に対しては、障がい等の状況に応じて、文字放送や読み上げ機能のある電子メール等の活用を図るなど十分に配慮する」とあるが、障がいに応じた多様な手段による情報伝達の現状を伺いたい。</p> <p>③ <u>個別計画の策定について</u> 佐野市地域防災計画によると、「市は、避難行動要支援者の個々の状況に応じた避難支援を迅速に行うため、本人や避難支援等関係者と打ち合わせをするなどして、災害時に避難支援を行う者、避難支援を行うに当たっての留意点及び避難場所、避難経路等の具体的な支援方法等を個別計画</p>	

<p>2. 認知症施策推進大綱を踏まえた取組について</p> <p>(1) 予防について</p> <p>(2) 早期発見・早期対応・医療体制の整備について</p>	<p>として定める」としているが、個別計画策定の現状と課題について伺いたい。</p> <p>④ <u>地域の共助力の向上について</u></p> <p>避難行動要支援者に対する支援体制を整えるには、地域の共助力を高める必要があるが、要支援者本人や避難支援等関係者に対する研修や防災訓練などの開催や、地元の消防団や防災士、地域で活動するボランティア団体など様々な活動団体との連携を図ることで、避難支援関係者の拡大、人材発掘など、地域の共助力の向上に繋げることができるか、伺いたい。</p> <p>⑤ <u>福祉避難所の活用と体制整備について</u></p> <p>佐野市地域防災計画によると、「市は、身体介護や医療相談等の生活支援が受けられるなど、要配慮者が安心して避難生活ができる体制・設備を整備した避難所を福祉避難所として指定し、必要数の確保に努める。また、要配慮者のニーズに適切に応えられるよう、相談窓口の設置を進める」とあるが、福祉避難所の活用と体制整備の現状について伺いたい。</p> <p>① <u>認知症予防に資する可能性のある活動の推進について</u></p> <p>地区の公民館や公園等の地域において住民主体で行う介護予防に資する取組である、例えば高齢者等が身近に通うことができる通いの場について、具体的な現状と今後の拡大について伺いたい。</p> <p>① <u>早期発見・早期対応・医療体制の整備について</u></p> <p>大綱によると、「認知機能低下のある人や、認知症の人の早期発見・早期対応のためには、地域の関係機関間の日頃からの有機的な連携が必要である」とし、「歯科医療機関や薬局等も、認</p>
---	---

(3) 認知症バリアフリーの
推進について

知症の早期発見・早期対応における役割が期待される。これらの専門職が高齢者等と接する中で、認知症の疑いのある人に早期に気づき、かかりつけ医等と連携して対応するとともに、その後も認知症の人の状況に応じた口腔機能の管理、服薬指導、本人や家族への支援等を適切に行うことを推進する」とあるが、これについて、本市はどのように推進していくのか伺いたい。

①認知症バリアフリーの推進について

大綱によると、地域支援体制の強化として、「ステップアップ講座を受講した認知症サポーター等が支援チームを作り、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組み『チームオレンジ』を地域ごとに構築する」とあるが、本市においては先ほど紹介した通り、既に『チームオレンジ』が全国の模範となる活動を推進しているところであります。

そこで、今後の本市の『チームオレンジ』が何を展望していくのか、また、どんな事業を市内に展開するのか、その構想と具体的な方針を、佐野市高齢者保健福祉計画へ盛り込むなど、明確に示す必要があると考えるが、見解を伺いたい。